

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から 明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

- (1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区のエ育施策に生かす。
- (2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。
- (3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1 調査日 令和8年4月14日（火）

2 調査対象 品川区立学校 第2～6学年の全児童

3 調査内容

教科に関する調査

→ 調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第2・3学年> 国語、算数

<第4～5学年> 国語、社会、算数、理科

<第6学年> 国語、社会、算数、理科、英語

品川区立戸越小学校

令和8年度『品川区学力定着度調査』の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

国語

1 定着状況についての概要

(1) 昨年度の取組による成果

週末の日記、帯時間での100マス作文、繰り返し行う漢字小テストへの取り組みや読書活動への積極的な取り組みを令和6年度より実施しており、各領域の問題の正答率は、安定した結果が得られた。毎年課題のある記述式問題「2段落構成で書く」ことは、今年度も3年生以上は目標値を達成している。

(2) 今年度の定着状況

どの学年も教科全体の目標値は超えている。問題の内容別に見ても、目標値を超えているものが多いが、「話を聞き取る」「漢字を読む」「言葉の学習」「お礼の手紙を書く」「文章を書く」において、一部の問題の目標値を下回った学年がある。

2 具体的な課題とその原因

(1) 課題

以下、目標値を下回っている領域である。

- | | |
|--------------------------------------|--|
| 6年生：「言葉の特徴や使い方に関する事項」 | ・第5年に学習した漢字を正しく書く。 |
| 5年生：「言葉の特徴や使い方に関する事項」 | ・第4学年に学習した、漢字を正しく書く。
・連体修飾語について理解する。 |
| 3年生：「書くこと」 | ・語と語や文と文との続き方に注意しながら、文章を書く。 |
| 2年生：「話すこと・聞くこと」
「言葉の特徴や使い方に関する事項」 | ・話し手が知らせたいことを落とさないように聞く。
・第1学年に学習した、漢字を正しく書く。
・共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解する。 |
| 「書くこと」 | ・伝えたいことを明確にして、自分の考えを書く。
・内容のまとまりが分かるように文章を書く。 |

(2) 考えられる原因

6年生：「言葉の特徴や使い方に関する事項」

→「境」という漢字が、正しく書くことができていない、または覚えていないため未記入。

5年生：「言葉の特徴や使い方に関する事項」

→「覚める」という漢字が、送り仮名が未記入、正しく書くことができていない、または覚えていないため未記入。

3年生：「情報の扱い方に関する事項」

→①2つの内1つの事柄にしか触れておらず、不正解になっている。読み取りに甘さがある。

②誤答、未記入がそれぞれ1割おり、題意や話の事柄を読み取れていない。

2年生：「話すこと・聞くこと」

→「公園」というキーワードを「家」と聞き間違えて捉え、解答している。

「言葉の特徴や使い方に関する事項」

→「百」という漢字を正しく読むことができない。

→題意が読み取れておらず、2割以上の無解答があった。

「書くこと」

→①無解答が3割弱いた。自分の経験に基づいて書かなければならないため、生活経験がまだ浅いことで、考えを表現することに結びつかなかった。

3 課題解決のための方策

全校での取り組み

(1) レベルアップの時間を活用し、作文や日記を書くことや読書活動を通して活字への関心を高める。

①テーマやキーワードを決めて、文章を書く取り組みをする。例：「説明するように」「理由を述べて」等。

②読書活動を通して、想像して事柄を深く読み取ることや情報を整理しながら読み取る機会を増やす。

(2) 個票を参考に、正答率50～70の児童のつまずきに対して個別指導を行い、底上げを図る。

令和8年度『品川区学力定着度調査』の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

社会

1 定着状況についての概要

(1) 昨年度の取組

- ・児童が「知りたい」と意欲をもって授業に臨めるように、めあての工夫や提示資料の教材研究を行う。
- ・社会の授業では、教科書にある写真やグラフ、表の読み取りを丁寧に行う。また、資料が何を表しているのか、読み取れることは何かを必ず確認すると共に、自分の言葉で表現できるようにする。
- ・各単元が終わった後に、単元テストの振り返りを行い、理解を深められるようにする。

(2) 今年度の定着状況

4～6年生のほとんどの項目で目標値、全国正答率を上回った。下回った項目はほとんどないが、正答率がやや低い項目については、以下の「具体的な課題」として挙げる。

2 具体的な課題とその原因

(1) 具体的な課題

- ・4年生では、「市の様子の移り変わり」の「市の人口と鉄道の利用者数の変化について、資料をもとに考え、表現している」の正答率が目標値を下回っている。
- ・5年生では、「自然災害からくらしを守るー地震」の「地震に備えた地域の取り組みについて考える」の正答率が目標値を下回っている。また、年表や資料の読み取りに課題がある児童もいる。
- ・6年生では、「日本の水産業」についての用語の理解や説明に課題がある。

(2) 考えられる原因

- ・4年生では、グラフから情報を読み取り、適切な用語を使って問題文の条件に合わせて説明することに慣れていない。
- ・5年生では、複数の年表や資料から必要な情報を読み取った上で考える力が不足している。
- ・6年生では、用語の定着が甘く、正しい組み合わせを選択することが難しい児童が数名いる。

3 課題解決のための方策

(1) 資料読み取りのスキル強化

- ・実物の提示、写真や動画、図やグラフ、インタビュー等、様々な資料を提示し、資料の見方や考え方について具体的に指導する。
- ・課題意識を高める発問をした上で、意欲を高め、自分の考えを書いたりペアやグループで話し合ったりする時間を設定する。
- ・単元末や家庭学習において復習プリントやAIドリルに取り組ませ、基本的知識の定着を図る。

(2) 実感を伴う学習の充実

- ・工場や生産の学習では、動画教材やオンライン見学を活用して、工程を視覚的に理解できる機会を増やす。
- ・複数の資料を組み合わせる答えを導く課題を意図的に取り入れ、比較・関連づける思考を育てる。社会科見学会で、自動車づくりの工程を見学したり、国会議事堂を見学したりすることで、学習した内容と結び付けて学べる機会を設ける。

(3) 複数資料を活用する力の育成

- ・用語や基本的事項を繰り返し確認し、それらを使って説明する時間を設定する。
- ・複数の資料を組み合わせる答えを導く課題を意図的に取り入れ、比較・関連づける思考を育てる。

令和8年度『品川区学力定着度調査』の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

算数

1 定着状況についての概要

(1) 昨年度の取組による各領域の成果

〈昨年度の課題〉

(1) 具体的な課題

【課題1：「数と計算」領域の習熟が不十分】

→対策1：授業内や家庭学習において、基本的な四則計算の問題練習をする時間を確保する。

対策2：できていない児童には、休み時間や放課後に個別指導する。

【課題2：「割合」の問題の理解が不十分】

→対策1：割合の意味を図や表を用いて繰り返し指導し、割合の意味を理解させる。

対策2：身近な場面から問題を考えたり、イメージ図をかいたりして考えさせる工夫をする。

〈今年度の成果〉

成果1：「数と計算」領域では、学力低位層は一定数いるが、平均正答率はどの学年も区平均を上回った。

成果2：「割合」の問題以外は、6年生はどの問題も高い正答率で、達成率が91%である。

(2) 今年度の定着状況

- ・低学年：基礎・活用ともに区平均を上回っている。問題の内容別に見ると、「3口の加法」は全国正答率を下回っている。「100までの数の系列」は、正答率が他の項目と比べると低い。
- ・中学年：基礎・活用ともに区平均を上回っている。問題の内容別に見ると、3年生は「ものさしの目盛りを読み取る」「位に着目して数の大小を説明する」、4年生は「地図から道のりを読み取って、その和を求める」の正答率が他の問題と比べて正答率が低い。
- ・高学年：基礎・活用ともに区平均を上回っている。問題の内容別に見ると、5年生は「身近にあるもののおよその面積を推測する」問題、6年生は「表から面積と人数の割合を求める」問題の正答率が目標値を下回っている。

2 具体的な課題とその原因

(2) 考えられる原因

【課題1に対して】3口の加減混合の場面をイメージすることができない。また、10の補数や20までのたし算ひき算の練習が十分ではないことが考えられる。

【課題2に対して】割合の意味について図や表を用いて指導したものの、「もとにする量」「比べられる量」「割合」の言葉や関係の理解が難しく、何をどのように求めるのか分からない児童が多いことが考えられる。

3 課題解決のための方策

【課題1：「数と計算」領域の理解が不十分】に対して

- ・文章問題の場面を図や絵に表す習慣を付ける。10の補数や20までの計算練習を取り入れ、指を使わずに計算できるようにする。

【課題2：「割合」の問題の理解が不十分】に対して

- ・割合の意味を図や表を用いて繰り返し指導し、理解させる。また、身近な場面から問題を考えたり、イメージ図をかいたりして考えさせる工夫をする。何倍かを求める問題を考える際に、「もとにする量」をおさえ、言葉や数の意味を理解できるようにする。

令和8年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

理科

1 定着状況についての概要

(1) 昨年度の取組

- ・各学年で理科的思考力を高めるための記述問題や演習プリントに取り組む機会を設けた。
- ・单元ごとに実験や観察活動を組み込み、言語化や振り返りを意識した指導を行った。

(2) 今年度の定着状況

- 4年生：すべての領域で区・全国平均を上回り、「植物の育ち方」「昆虫の育ち方」で正答率が高かった。
- 5年生：すべての領域で区・全国平均を上回り、特に「月と星」「物のあたたまり方」で正答率が高かった。
- 6年生：すべての領域で区・全国を大きく上回り、特に「魚のたんじょう」「人のたんじょう」の領域で安定した成果を上げた。

2 具体的な課題とその原因

(1) 課題

- ・4年では、「虫眼鏡の使い方」の問題から、虫眼鏡をどのように動かして観察すればよいかの理解ができていないことがわかった。
- ・5年では、「骨のはたらき」や「自然の中の水」の空気中の水蒸気が水になることを結露と答える設問の正答率が低かった。
- ・6年では、「顕微鏡の使い方」の問題から、使い方の手順に課題があることがわかった。

(2) 原因

- ・事象についての理解はあっても、それを理科用語で説明する機会が十分になく、用語の定着が不十分な児童が一定数いる。
- ・用具の使用頻度が少なく、使い方の理解が十分でないまま、单元を終えてしまう。

3 課題解決のための方策

全校での取組

- ・単元の導入・まとめ時にNHK for school等の動画を活用し、理科的な概念理解を深める。
- ・考察の場面では、自分の言葉で記述するように指導するとともに、单元末には記述問題に継続的に取り組み、観察・考察を言語化する習慣を付ける。
- ・実験・観察の場面では、使い方の手順を確認しながら一人一人が用具を扱う場面を設けて、扱う機会を増やすようにする。

学年別の具体的対応

- ・4年：虫眼鏡や温度計などの道具を扱う单元では、使い方を確認した後、実際に使用する体験を増やして、使い方の定着を図る。
- ・5年：問題解決的な学習活動を丁寧に行うとともに、单元末には学習のまとめとプリント等で問題演習を行い、知識の定着を図る。
- ・6年：問題解決的な学習の中で、「予想→実験」「結果→考察」の過程を重点的に指導し、顕微鏡など用具の使い方について、一人一人が操作する時間を十分にとるようにして定着を図る。

令和8年度『品川区学力定着度調査』の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

英語

1 定着状況についての概要

(1) 昨年度の取組による成果

積み重ねによって、アルファベットの大文字と小文字の定着はよくできている。

リタラシー活動やフォニックスの学習をすることで単語を読んだり書いたりすることができるようになり、英語を身近に感じることで抵抗なく取り組むことができている。

(2) 今年度の定着状況

「聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域で目標値を上回っている。リタラシー活動の成果により、アルファベットを聞いたり書いたりすることは、とてもよくできている。アルファベットの聞き分けは毎年課題があるが、今年度は全体的によく聞き取ることができている。

2 具体的な課題とその原因

(1) 領域

「聞くこと」の「単語や表現の意味理解」は、他の領域と比べるとやや苦手意識がある。毎回の授業の中で Joint storytelling の物語の内容を推測することはできているが、普段聞き慣れない物語の推測に関しては、今後慣れていく必要がある。

(2) 考えられる原因

Joint storytelling を通して文脈の理解はよくできているが、正確な語句の意味と結び付けることができていないため、新たな話の概要を捉えることに課題が見られる。

3 課題解決のための方策

英語科の向上を図るために

- 英語の授業でよく使う単語の聞き取り（曜日や数字、教科、施設名など）はよく定着している。その一方で、アルファベットの聞き取りは、正しく聞いて書き取るところまで完璧にする必要がある。英語の授業内で、様々な単語を聞いたり発話したりする機会を増やすことで使える語彙を増やす。また、会話力を高めることができるように、ペアや全体でスモールトークをする時間も増やしていく。
- 授業の時だけ英語を使うのではなく、日常生活の中でも階段や掲示板を活用して英語を目にする機会を多くすることや、学級の中でも英語を使う場を意図的に設定することで、英語が身近に捉えられるようにしていく。